

2018 年度事業報告（中高）

2018 年度事業計画	2018 年度事業報告	来期以降への課題等
<p>(1) 教育理念の実践と内部質保証の実質化</p> <p>ア キリスト教主義教育</p> <p>a. 礼拝を守る</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒が、聖書に一人で対峙する。 <p>イ 新しい教育課程の構築</p> <p>a. 課題研究カリキュラムの実践</p> <ul style="list-style-type: none"> カリキュラムの構築 図書館にラーニングコモンズを設置 <p>b. 育成すべき資質・能力の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> 各教科・各部会で本校の課題を明らかにする。 <p>c. 一人一台 PC の導入・活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用イメージを作成する。ルールについて検討する。 <p>d. グローバル教育の実践</p> <ul style="list-style-type: none"> PS（ピーススタディーズ）、選抜授業 GI、海外研修等の在り方の検討 <p>ウ 生徒支援の充実</p> <p>a. 集団に適応できない生徒の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習ルームの在り方の見直しと教育相談体制作りをする。 <p>b. 基本的生活習慣の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> 挨拶、登下校のマナー、遅刻をしない等の基本マナーの向上。 SNS 使用に伴う危険性を理解させる。 	<p>ア キリスト教主義教育</p> <p>a. 毎朝の礼拝は、教師・生徒にとって大切なものとなっている。生徒の礼拝は、豪雨災害があったこともあってか、命や周りとの関りをしっかり見つめる内容が多かった。</p> <p>イ 新しい教育課程の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> 「学ぶ」……主体的に、楽しく学ぶ 「認める」……他者を認め、自分を認める 「つながる」……他者や社会とつながる <p>の3つの領域で生徒を成長させる。それぞれ「主体性の伸長」「人間理解の深化」「グローバルマインドの育成」をカリキュラムポリシーとして、教育課程を構築する。その方策として2019年度より、以下の4点に取り組む。</p> <ol style="list-style-type: none"> コンピテンシーの多面的評価 <p>「学ぶ」領域では、知識・技能、知的好奇心、課題探求力。「認める」領域では、傾聴力、想像力、関係構築力。「つながる」領域では、課題発見力、計画実践力、合意形成力をキー・コンピテンシーとする。教員の共有による教科横断的な取り組みの推進を図り、今後社会で求められるであろう資質・能力を積極的に評価する。その多面的な評価による生徒の自己肯定感の向上を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 課題研究の本格導入 <p>「総合的な時間（1単位）」を設定し、理科、社会の授業と連動させる。中1から、自らの課題を探求するために必要なスキルの習得をさせる。そのため、ラーニングコモンズの設置（2019年度4月から）、一人一台PC環境の整備（2020年度実施予定）を進め、課題研究や課外活動の深化・発展を促す。</p> <ol style="list-style-type: none"> Extensive Program の新設 <p>中3から高3までの生徒が、学年の枠を超えて自由に選択できる講座 EP を新設し、生徒の主体的な学びを促進。</p> <ol style="list-style-type: none"> 新しいグローバル教育の構築 <p>現在の PS を軸としつつも、高校段階において、各自が主体的に課題研究ができる形を目指す。</p> <p>ウ 生徒支援の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 2018 年も外部教育相談員参加の監督会議を開く。学習ルーム利用にあたってカウンセリングを義務付け、カウンセラーとの連携を図った。教育相談会議を8回実施。また、10月にケース会議を実施。教育相談体制への一步を踏み出した。 	<ul style="list-style-type: none"> 来年度も、礼拝を大切に守っていく。 <ul style="list-style-type: none"> 2014 年度から 2018 年度までの 5 年間、SGH 指定校として教育活動を行ってきた。このプログラムにより、指定前の 2013 年度と 2017 年度の比較は以下の通り。 <ul style="list-style-type: none"> ○国内研修 440 名→971 名 ○海外研修 32 名→103 名 ○自主的に社会貢献活動・自己研鑽活動に参加 70 名→501 名 ○公益性の高い大会に参加（入賞）5 名→728 名（19 名） <p>以上のように、グローバルリーダーを育成するカリキュラム開発には成功したといえる。その結果、一定の能力、主体性を備えた生徒が飛躍的に成長したが、その一方で、その水準に至らない生徒の成長に向けた道筋の明確化が必要である。すなわち、スキルの育成と成長過程を追いかける評価が必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> 規則の順守についての保護者アンケートの評価は高いものではない。教員の指導の充実により、生活習慣をより良いものにしていくことが必要である。 生徒支援の形を、事後指導から事前指導にしていくことが必要である。そのために、学年会の役

<p>エ 広報・入試対策</p> <p>a. 私学受験者の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「おさんぽ女学院」をはじめとして広報企画行事の充実 ・中学入試受験者数の確保 <p>b. 入試問題の適正化を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、大きな変更はなし。各教科で新テストを意識する。 <p>オ 進路実績を伸ばす</p> <p>a. 難関大学の実績を伸ばす</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学力向上および学習習慣の定着化を目指す ・難関大学の合格実績を出す。 <p>b. 大学共通テストへの対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育構想検討委員会の新しい評価に対応した進路体制をつくる。 <p>c. 推薦入試等への対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Eポートフォリオについて検討する。 	<p>エ 広報・入試対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年も「私学離れ」の傾向がある中、受験者数 722 名（志願者 745 名）を維持している。 ・「おさんぽ女学院」（7 月 16 日海の日実施）には、626 名の児童が参加。広報部の塾訪問の成果あり。ポスター・HP を有効利用できている。 ・小学生保護者の掘り起こしを狙って実施してきた「教育講演会」は、掘り起しには繋がらなかった。 <p>オ 進路実績を伸ばす</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担任、教科担当の指導の下、生徒一人ひとりが進路実現に向けて自分のペースで頑張ることができている。 ・大学合格実績 <p>○国公立（推薦+前期+後期）合計 92 名（現役 74+浪人 18） （東大 1 京大 1 大阪 1 名古屋 3 神戸 3 九州 3, 広大 25 など）</p> <p>○私立（推薦・AO 含む） 広島女学院 32 早稲田 10 上智 1 東京理科 5 立教 7 明治 7 中央 7 青山学院 5 関西学院 26 同志社 20 立命館 36 関西 13 修道 45 安田 37 など</p> <p>○医学科 17（国公立 5（現役 2），私立 12（現役 3））</p>	<p>割、生徒支援部の役割、カウンセラー・保健室の役割等環境を整備することが必要。例えば、教育アドバイザーの採用なども含めて。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月に行われる学校説明会（入試説明会）において、児童はオープンスクールとし、学校紹介の機会を増やす。 ・新しいカリキュラムの評価の部分が進路指導と直結するところであるが、この部分をより具体的なものとするのが急務。
--	--	---